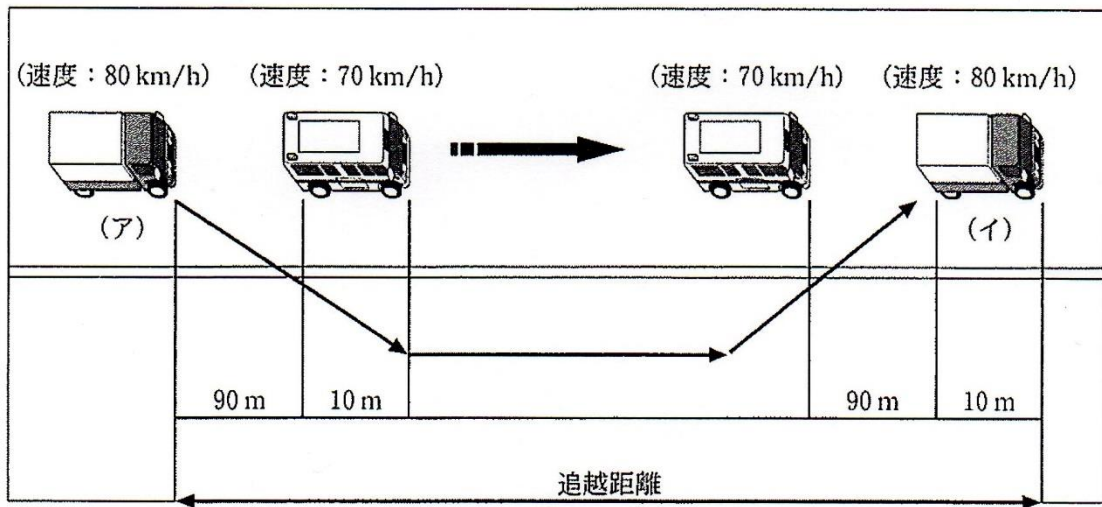


◆実務上の知識及び能力(過去問題 貨物)◆

問28 (27年8月)

自動車の追い越しに関する次の文中、A及びBに入るべき字句を下の枠内の選択肢(1～6)から選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

1. 高速自動車国道を車両の長さ10メートルのトラックが時速80キロメートルで走行中、下図のとおり、時速70キロメートルで前方を走行中の車両の長さ10メートルのバスを追い越すために要する追越距離は[A]である。なお、この場合の「追越」とは、トラックが前走するバスの後方90メートル(ア)の位置から始まり、バスを追い越してバスとの車間距離が90メートル(イ)の位置に達するまでのすべての行程をいう。
2. 「1」の場合において追い越しに要する時間は、[B]である。なお、解答として求めた数値に1未満の端数がある場合には、小数点第一位以下を四捨五入すること。



(注1) 追越車両の左右の移動量は、考慮しないものとする。

(注2) 各々の車両は、一定速度で走行しているものとする。

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| 1. 1, 440メートル | 2. 1, 520メートル | 3. 1, 600メートル |
| 4. 7.2秒 | 5. 6.8秒 | 6. 6.5秒 |

問28 (28年8月)

事業用自動車の運転者の健康管理及び就業における判断・対処に関する次の記述のうち、適切なものには「適」の欄に、適切でないものには「不適」の欄にマークしなさい。なお、解答にあたっては、各選択肢に記載されている事項以外は考慮しないものとする。

1. 事業者は、運転者の自動車の運転に支障を及ぼすおそれがある脳血管疾患及び心疾患等に係る外見上の前兆や自覚症状等を確認し、総合的に判断して必要と認められる場合には、運転者に医師の診断等を受診させ所見に応じた精密検査を受けさせてその結果を常に把握するとともに、医師から結果に基づく運転者の乗務に係る意見を聴取する。(適切)
2. 運転者は、営業所に帰庫する途中に体調が悪くなり、このままでは運行の継続ができないと判断し、近くの場所に安全に駐車して運行管理者に連絡をした。運行管理者は運転者に対し、しばらくその場所にて休憩を取り、営業所も近いことから、自らの判断で再開するよう指示した。(不適)
3. 漫然運転や居眠り運転の原因の一つとして、睡眠時無呼吸症候群(SAS)と呼ばれている病気がある。この病気は、狭心症や心筋梗塞などの合併症を引き起こすおそれはないが、安全運転を続けていくためには早期の治療が不可欠であることから、事業者は、運転者に対しSASの症状などについて理解させるよう指導する必要がある。(不適)
4. 健康へのリスクが少ない節度ある適度な飲酒の目安としては、純アルコール20グラム(以下「1単位」という)とされている。その1単位(アルコール5%のビールの場合約500ミリリットル)のアルコールを処理するための必要な時間の目安は、概ね4時間とされているので、事業者は、これらを参考に個人差を考慮して、社内教育の中で酒気帯び運転防止の観点から酒類の飲み方等についても指導を行っている。(適切)

問28 (29年8月)

自動車の運転に関する次の記述のうち、適切なものには解答用紙の「適」の欄に、適切でないものには解答用紙の「不適」の欄にマークしなさい。なお、解答にあたっては、各選択肢に記載されている事項以外は考慮しないものとする。

1. 自動車のハンドルを左に切り旋回した場合、左側の後輪が左側の前輪の軌跡に対し内側を通ることとなり、この前後輪の軌跡の差を内輪差という。ホイールベースの

長い大型車ほどこの内輪差が大きくなることから、運転者に対し、交差点での左折時には、内輪差による歩行者や自転車等との接触、巻き込み事故に注意するよう指導する必要がある。(適切)

2. 前方の自動車を大型車と乗用車から同じ距離で見た場合、それぞれの視界や見え方が異なり、大型車の場合には運転席が高いため、車間距離をつめてもあまり危険を感じない傾向となるので、この点に注意して常に適正な車間距離をとるよう運転者を指導する必要がある。(適切)
3. 運転中の車外への脇見だけでなく、車内にある画像表示用装置を注視したり、スマートフォン等を使用することによって大幅に追突事故等の危険性が増加することについて、日頃から運転者に対して指導する必要がある。(適切)
4. 四輪車を運転する場合、二輪車との衝突事故を防止するための注意点として、①二輪車は死角に入りやすいため、その存在に気づきにくく、また、②二輪車は速度が実際より早く感じたり、距離が近くに見えたりする特性がある。したがって、運転者に対してこのような点に注意するよう指導する必要がある。(不適切)

問28 (30年8月)

交通事故防止対策に関する次の記述のうち、適切なものには解答用紙の「適」の欄に、適切でないものには解答用紙の「不適」の欄にマークしなさい。なお、解答にあたっては、各選択肢に記載されている事項以外は考慮しないものとする。

1. 適性診断は、運転者の運転能力、運転態度及び性格等を客観的に把握し、運転の適性を判定することにより、運転に適さない者を運転者として選任しないようにするためのものであり、ヒューマンエラーによる交通事故の発生を未然に防止するための有効な手段となっている。(不適)
2. ドライブレコーダーは、事故時の映像だけでなく、運転者のブレーキ操作やハンドル操作などの運転状況を記録し、解析診断することで運転のクセ等を読み取ることができるものがあり、運行管理者が行う運転者の安全運転の指導に活用されている。(適切)
3. 平成28年中の自動車乗車中死者の状況をみると、シートベルト非着用時の致死率は、着用時の致死率の10倍以上となっている。他方、自動車乗車中死者のシートベルト非着用時の割合は、全体の約40%を占めていることから、シートベルトの確実な着用は死亡事故防止の有効な手段となっている。(適切)

4. 交通事故の多くは、見かけ上運転者の運転操作ミスや交通違反等の人的要因によって発生しているが、その背景には、運転操作を誤ったり、交通違反せざるを得なかったりすることに繋がる背景要因が潜んでいることが少なくない。したがって、事業用自動車による事故防止を着実に推進するためには、自己の背景にある運行管理その他の要因を総合的に調査・分析することが重要である。(適切)

問29 (27年8月)

国土交通省がとりまとめた「トラック輸送の過労運転防止対策マニュアル」における下記の「過労運転による事故の危険性について」の記述等を踏まえ、事業者又は運行管理者が実施する次のア～クの対策の中で、**過労運転防止のために最も直接的に有効**と考えられる組合せを、末尾の枠内の選択肢(1～6)から1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークしなさい。

「過労運転による事故の危険性について」

(平成20年「トラック輸送の過労運転防止対策マニュアル」より)

トラック輸送事業においては、運転者の深夜・早朝を含む長時間の労働の結果、慢性的な休養不足により疲労が蓄積しやすく、運転者に過労状態が生じやすい傾向がある。また、長距離運行の際の車中泊等、睡眠環境の悪さなどが疲労回復を妨げ、過労運転の要因となっており、

- (1) 「睡眠時間5時間未満の運転者」のヒヤリハット体験や居眠り運転の体験率は「睡眠時間5時間以上の運転者」に比べてヒヤリハットの体験率が2.3倍、居眠り運転の体験率は、3.3倍となっている。
- (2) 運転者の65%が運転中に眠気により危険を感じたことがあり、このうちの3分の2(全体の44%)は、実際に居眠り運転の経験があると解答している。
- (3) 大型トラックの事故の約55%は追突事故であり、これによる死亡事故率は、乗用車に比べて約1.2倍高いという事故分析結果がある。

- ア 経営トップから現場の運転者に至るまで、「輸送の安全」が企業の存立に最も重要であることをあらためて自覚し、**過労運転防止を安全方針**等に掲げて具体的数値目標を設定し、PDCAサイクルに基づき輸送の安全性の向上を図ること。

- イ 運転者には、大型トラックの**運転方法、多様な地理的・気象状況**のもとでの**道路状況及び運行の状況に関する指導**を計画的に行い、運転者の安全運転に関する**技量向上を図る**こと。

※過労運転防止には直接関係はない

- ウ 点呼において、運転者の顔つきなどの変化をよく観察し、前日の勤務状況や**疲労及**

び健康状態などについて細かくチェックすることはもとより、運転者が疲労及び健康に関連した異常を感じたときに、常に「安全を優先した」対応のでき、職場環境作りをすること。

- エ 「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」を遵守し、運転者が疲れを感じたときには、臨時に休憩がとれる余裕を見込んだ運行計画を作成すること。

オ 法令に基づく運転者が遵守すべき事項に関する知識のほか、大型トラックの持つ特性等について理解させ、運行の安全を確保するための必要な運転に関する技能・知識を習得させること。

※運転に関する技能・知識は過労運転に直接関係はない

- カ 運転者が自ら日常的に健康管理を適切に行っていくことを指導すること。特に、脳卒中や心臓病など、運転中の突然死を招く生活習慣病を予防していくためには、食生活、運動習慣、休養、飲酒、喫煙等の習慣を改善し、自身の健康状態を把握するために、定期的な健康診断は必ず受診をさせること。

- キ 大型トラックが駐車して休憩できる駐車場やトラックステーション等の位置を把握し、運行計画の策定時に運転者が休憩・仮眠に利用できるよう配慮し、これらの施設を運転者に活用させるよう指導すること。

ク A S V (先進安全自動車)の導入により、車両面の安全対策を行っていくこと。

※車両については直接的な関係はない

1. ア・イ・ウ・オ・カ

3. ア・エ・オ・キ・ク

5. イ・ウ・カ・キ・ク

2. ア・ウ・エ・カ・キ

4. イ・ウ・エ・オ・ク

6. エ・オ・カ・キ・ク

問29 (28年8月)

荷主から貨物自動車運送事業者に対し、B地点で荷積みをし、C地点に12時に到着させるよう運送の依頼があった。これを受けて、運行管理者として運転者に対し当該運送の指示をするため、次に示す「当日の運行計画を策定するための前提条件」に基づき運行計画を立てた。この運行に関する次のア～ウについて解答しなさい。なお、解答にあたっては、「当日の運行計画を策定する前提条件」に記載されている事項以外は考慮しないものとする。

[当日の運行計画を策定するための前提条件]

- A営業所(6時30分)を出庫し、30キロメートル離れたB地点(7時30分)まで平均時速30メートルで走行する。

※距離30キロメートルを時速30キロメートルで走行 **運転1時間**

○B地点において30分間の荷積みを行う。中断30分

B地点(8時00分出発)

○B地点から180キロメートル離れたC地点までの間、一部高速自動車国道を利用し、平均時速45キロメートルで走行して、C地点に12時00分に到着する。

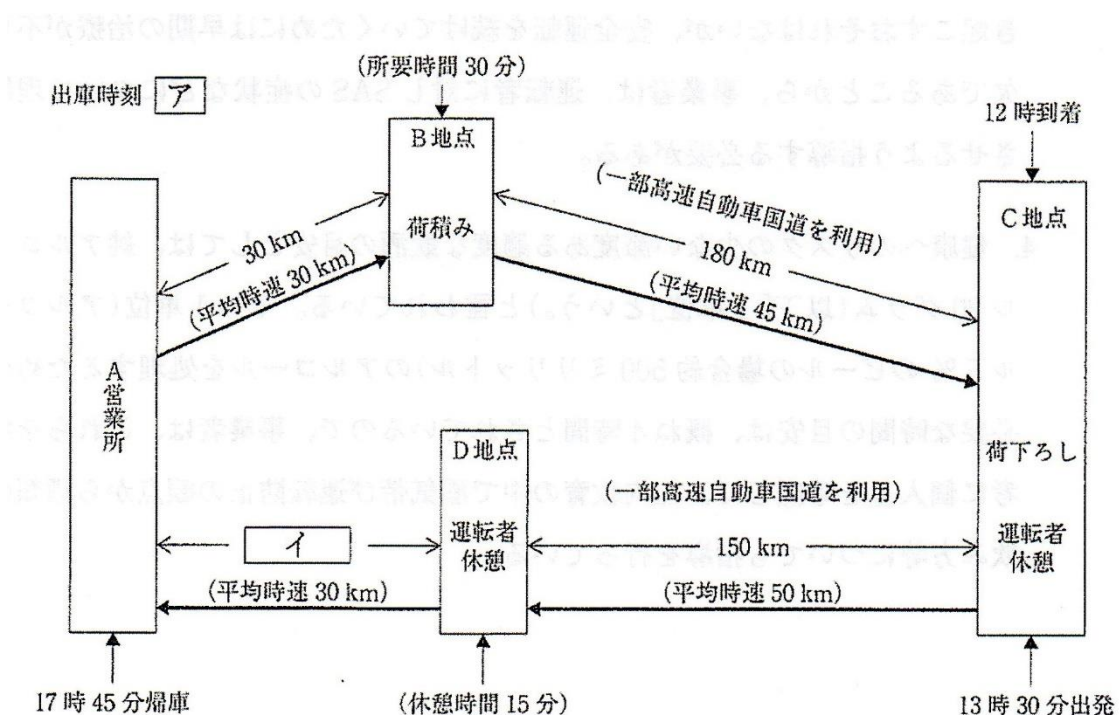
※距離180キロメートルを時速45キロメートルで走行 **運転4時間**

○荷下ろし後、1時間休憩をとる。休憩後、A営業所に帰庫するため、

C地点を13時30分に出発、一部高速自動車国道を利用し、150キロメートル先のD地点までの平均時速50キロメートルで走行して到着後、15分の休憩をとる。

※距離150キロメートルを時速50キロメートルで走行 **運転3時間**

○D地点(16時45分出発)からA営業所まで平均時速30キロメートル(運転1時間)で走行して、A営業所に17時45分に帰庫する。



ア C地点に12時に到着させるためにふさわしいA営業所の出庫時刻について、次の1~4の中から正しいものを1つ選びなさい。

1. **6時30分** 2. 7時00分 3. 7時30分 4. 8時00分

イ D地点とA営業所間の距離について、次の1～4の中から正しいものを1つ選びなさい。

1. 15キロメートル
2. **30キロメートル**
3. 45キロメートル
4. 60キロメートル

ウ 当日の全運行において、**連続運転時間**は「自動車運転者の労働時間等の改善基準のための基準」に照らし、違反しているか否かについて、次の1～2の中から正しいものを1つ選びなさい。

1. **違反していない。**

2. 違反している。

※A～B 運転1時間、中断(荷積み)30分で、運転時間はリセット

B～C 運転4時間、休憩等1時間30分で運転時間はリセット

C～D 運転3時間、休憩15分

D～A 運転1時間 乗務終了しているためDからAでの休憩15分でも可

問29 (29年8月)

交通事故防止対策に関する次の記述のうち、適切なものには解答用紙の「**適**」の欄に、適切でないものには解答用紙の「**不適**」の欄にマークしなさい。なお、解答にあたっては、各選択肢に記載されている事項以外は考慮しないものとする。

1. **適性診断は、運転者の運転行動、運転態度及び性格等を客観的に把握し、安全運転にとって、好ましい方向へ変化するよう動機づけすることにより、運転者自身の安全意識を向上させるためのものであり、ヒューマンエラーによる交通事故の発生を未然に防止するための有効な手段となっている。(適切)**
2. 平成27年中の事業用貨物自動車第1当事者となった人身事故の種別発生状況をみると、「**出会い頭衝突**」が最も多く、全体の約半分を占めており、続いて「追突」の順となっている。このため、運転者に対し、特に、交差点における一時停止の確実な履行と安全意識の徹底を指導する必要がある。
(不適) 正しくは、**追突事故が最も多い**
3. **平成27年中の交通事故死者数のうち、65歳以上の高齢者の占める割合は、全体の約5割である。このため、運転者に対し、高齢の歩行者などは身体的機能の低下により危険の発見、回避が遅れることなどを考慮して運転するよう指導する必要がある。(適切)**
4. **衝突被害軽減ブレーキは、レーダー等で検知して前方の車両等に衝突する危険性が生じた場合に運転者にブレーキ操作を行うよう促し、さらに衝突する可能性が高く**

なると自動的にブレーキが作動し、衝突による被害を軽減させるためのものである。
当該ブレーキが備えられている自動車に乗務する運転者に対しては、当該ブレーキ
の機能等を正しく理解させる必要がある。(適切)